

令和6年度 学力向上指導改善プラン

学校教育目標		学ぶことを楽しみ、人とつながって心豊かに生きるつつじっ子の育成			
推進主体		管理職と研究推進担当・生徒指導担当・新学習システム推進教員を中心に学力向上委員会			
学力に関する前年度の状況・経年の課題等					
学力の状況	全国学力・学習状況調査結果の状況(国語、算数・数学に関する質問調査の結果も含む)	国語	<ul style="list-style-type: none"> 「書くこと」では、正答率が20.8%(全国平均26.7%)で全国平均を5.9ポイント下回っているものの、昨年度は全国平均を15ポイント下回っていたため、全国平均との差が小さくなっている。(経年) 漢字を文の中で正しく使うことができるかをみる設問では、本校は87.5%(全国平均72.6%)で14.9ポイント上回っていることから、漢字の定着ができてきているといえる。 原因と結果など情報と情報の関係について理解しているかどうかをみる設問では、70.8%(全国平均64.7%)と約6ポイント上回っている。 目的に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる設問で79.2%(全国平均70.2%)と9ポイント以上、上回っていることから目的をもって書く力が高まってきていることがうかがえる。 		
		算数 数学	<ul style="list-style-type: none"> 図形領域では、本校が54.2%と全国を6.2ポイント上回っており、良好な結果であるといえる。 データの活用領域では、本校が69.4%と全国を3.4ポイント上回っている。 変化と関係の領域では、全国平均が71.8%に対して本校は66.7%と4.1ポイント下回っている。 切った開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときAの角の大きさを書く問題では29.2%と全国平均を4.3ポイント上回っているものの、ポイント数は低く課題がある。 テープを直線で切ってきた2つの三角形の大小についてわかることを選び、選んだわけを書く問題では、41.7%と全国平均を20.9ポイント上回っているが半数以上の児童が誤答を選んでいる。 		
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の読みかえ、使い方に課題があり、音に当てはめた文字を書く傾向がある。(経年) 各教科の単元テストでも、記述式で回答する設問において、学年が上がるにつれて無回答の児童が増える。 			
	授業等からうかがえる状況(各教科)	<ul style="list-style-type: none"> 高学年では、学習したことをタブレットのアプリを用いてまとめる機会を定期的に行い、自分の考えを言葉や文章でわかりやすく表現しようとする意欲を高めている。 学習内容を関連付けて考える意識が弱い児童がいるため、学年と学年の学習内容のつながりや単元間士の関連性を理解できるように、授業で意識をもたせながら学習に取り組ませる必要がある。 文字を丁寧に書くことや定規の使い方、机の上の学習用具の置き方、鉛筆の持ち方、学習姿勢など、学習規律・授業規律の定着を図っている。 あいさつや通学準備は、自分の思いを伝え方や主語と述語をはっきりさせて正しく伝える力をつけることが必要である。 自分で課題を立てて情報を集め、それを整理して、調べたことを発表するという学習経験が不足している。 			
慣学・力生向上に慣れる学習状況	全国学力・学習状況調査の質問の状況	<ul style="list-style-type: none"> 「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の項目では、68%の児童が「あてはまる」と答えている。また、「学校が休みの日に一日どれくらい学習しますか」の項目に対して「時間未満」と回答している割合が44%であった。 「自分には、よいところがあると思いますか」の項目では、96%の児童が「あてはまる」と答えている。また、「将来の夢や目標を持っていますか」の項目で92%、「人が困っているときは、進んで助けていますか」では、100%の児童が「あてはまる」と答えている。 			
	学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況	<ul style="list-style-type: none"> 教職員、保護者ともに自分からすすんであいさつをする子どもが少ないと感じている。 ほとんどの子どもたちが規則正しい生活習慣を意識しているものの生活習慣が整っていない子どもが一定数いる。 			
授業改善	主体的・対話的で深い学びを目指した授業改善	<ul style="list-style-type: none"> 講師を招いて子どもがより主体的になる手法や教材についての講話や全体研修会などを開いて、教職員の授業力向上に努めている。 気づきを促す子どもは多いが、相手意識をもって対話を通して学びを深める授業の実現には課題がある。 			
	ICT機器を効果的に活用(クラウド環境を活かした授業実施等)	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器の効果的な活用について研究と関連付けながら検証をしていく必要がある。 タブレットを持ち帰り、家庭学習でアプリやミライシードなどを使って学習に取り組み、基礎学力を定着させることに課題がある。そのため家庭学習についての整備を行う必要がある。 			
研修内での研究状況	校内研究の状況	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究においては「タイが生まれる楽しい授業」をテーマに、主体的・対話的な学びを大切に授業づくりを推進している。 全国学力・学習状況調査結果の状況をふまえ、基礎基本の徹底・活用能力の育成・表現力の向上・問題解決に対する意欲の向上などについて更なる研究が必要である。 			
	校内研修の状況	<ul style="list-style-type: none"> 研究推進委員会で子どもたちの学力向上への方策について研究を深めると共に、外部講師を招き、授業実践についての研修を進めている。 学期ごとに研修会を開き、教員の授業力向上を図っている。 			
家庭連・携種間	家庭・地域等の状況	<ul style="list-style-type: none"> 3年生での田植え、2年生での町探検、1年生での普遊びなど貴重な体験をさせて頂いており、地域が非常に協力的である。 新1年生の下校の見守りや配膳ボランティア、ミンボランティア、図書ボランティアなど、地域人材を活用している。 			
	小・中における教員連携等の状況	<ul style="list-style-type: none"> 生活指導・人権学習・英語学習などの観点から、中学校区で校種を超えて、授業を互いに参観し合い交流することを通して、児童の理解を深めている。 			
		4月	2~3月		
		学力向上に向けての重点的な目標	年度末評価		
		(指標となる数値等)	(今年度の成果と来年度に向けた課題等)		
		成果となる目標	具体的な行動目標		
		(指標となる数値等)	(成果目標達成のための具体的な手立て等)		
		評価			
	○読書活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 読書をする時間を昨年より増やす。(1・2年15分以上、3年以上30分以上の児童が50%) 読書通帳で100冊達成する児童を昨年度より増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝の読書タイムを活用して読書習慣を確立させ、本に親しむ機会を増やす。 学校司書を中心に、本の選び方指導や本の読み聞かせ、図書館便りの発行などを通して読書の楽しさを伝える。 「読書通帳」を活用して読書の質・量とともに増やし、数多く読書をした児童を表彰することによって、読書を一層奨励する。 図書室や学年フロアなど、本に親しめる環境を整備し、読書の楽しさを一層味わえるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> 学校司書や担任との連携で年間を通しての読書活動への取り組みが深まった。また、図書のおススメの本紹介をする場を設定することが子どもたちの表現力を高めることにもつながっている。 朝の読書タイムや図書ボランティアによる読み聞かせなどの継続した取り組みによって、児童の読書することへの意欲が高まってきている。各教室では、わずかな隙間時間や休み時間に読書したり、休み時間に図書室を利用する児童の姿が見られる。 読書通帳で100冊達成する児童は、5名と昨年度と比べて同程度であるが高学年の本の貸し出し数は増えている。今後、電子図書導入なども活用していきたい。 児童の関心のある本や国語など各教科と関連付く本を揃えたり、身近に本に親しめる環境を整備したりする。 読書環境の整備を進め、読書習慣身に付ける工夫を図る。 	B
	○文章を書く力の伸長	<ul style="list-style-type: none"> 学年の発達段階に応じた書く力の向上を図る。 算数の思考過程を記述する問題の平均正答率が全国平均をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> 低学年から日記や視写等の活動を通して、語彙力、表現力を高め、書くことに対する抵抗感をなくす。 分からない言葉は、辞書ですぐに調べさせる機会を多くとり、辞書を使う習慣をつける。 設定された字数や目的に合わせて、情報を取捨選択し、要約する学習を重ねる。 書いた文章を推敲する時間を設定し、自分の文章を読み直すことを習慣化させる。 図表やグラフなどを用いた文章や新聞記事を活用し、それらを用いる意図や効果について理解させるとともに、説明的な文章を書く際には、図表を効果的に活用できるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語など説明文の学習で、文章構成を理解し、物語紹介カードや新聞などに書きたい情報をまとめた。図や表を用いて表現する意識が育ってきている。 高学年では、学習したことをタブレットのアプリを用いてまとめる機会を学習中に意図的に仕組むことにより、自分の考えを文章で分かりやすく表現しようしたり、自分の考えを伝えるために効果的な資料を取捨選択したりするなど、相手意識をもちながら取り組もうとする姿が見られるようになってきている。 低学年では、ひらがなやカタカナの使い方が不十分であったり、中高学年では、段落相互の関係や題名と本文のつながりなどを意識しながら読み取り、自分の言葉で要約したりする力に課題が見られる。 課題や自分の考えに合わせて、読み手により伝わるような言葉を選んだり、適切な言葉で表現したりすることに課題がある。 	B
	○算数科を中心に「タイが生まれる楽しい授業」のテーマに沿って思考力を高める授業改善	<ul style="list-style-type: none"> 校内アンケートで「算数が好き」という児童85%以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 「タイが生まれる楽しい授業」をテーマに、子どもが主体的に学習に取り組む授業の仕組みを研究する。 教育環境整備やつつじが丘小学校スタイルのノート作りを推進すると共に、相互評価を充実させる。 「つかむ」「考える」「深める」「ふり返る」の授業の流れの可視化を図る。 課題提示の仕方を工夫し、児童からめあてを引き出すことで主体的な問題解決につなげる。 自分の考えを工夫してまとめたノート(いいねノート)として掲示する。 ノートコンストを行い、相互評価の場を持つことを通して、学習意欲を高める。 タブレットPCなどのICT機器の効果的な活用方法について研究を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習内容や既習事項を活用しながら意見を伝える場面が見られるようになってきている。また、考えの根拠をたずねた時「だったら～」や「じゃあ～」などの言葉を使って発展的に思考し、発表する姿が増えている。 高学年ではタブレットのムーブノートなどを活用する場を設定することで、ICT機器を活用しネットワーク上で考えを伝えるようになってきている。低学年から系統立ててICT機器の活用能力を育てていきたいと考える。 算数アンケートの結果から、児童の多くは算数が好きと答えているものの、高学年になるにつれて学力にひらきが出てくる傾向にある。授業の中で、学力にひらきが出る瞬間など、今後、研究をすすめながら学力差が生まれる原因についても探っていく。 具体的な操作物を活用したり、生活体験と結び付けたりすることで児童の経験の蓄積を図り、学力の基礎作りを行っていく。 児童のタイを引き出す方法やタイの働き方を引き続き、研究を行いながら検証する。 	A
	○学習規律・授業規律の定着と学習環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 聴き合い学び合うクラス作りを行う。 授業でのあいさつをはじめ、自分の思いを伝える力や主語と述語をはっきりと正しく伝えることを意識する。 	<ul style="list-style-type: none"> 正しい学習姿勢を目指し、キッピー体操を週2回行う。 学習の準備について指導・点検を行い、定着させる。 「目を見て話を聴く」、「反応しながら聴く」、「体を止めて聴く」、「手遊びをしない」など、聴く態度の徹底を図る。特に低学年では、望ましい聴き方ができている児童を褒めることで、クラス全体の聴く態度につなげていく。 中学校区での合同研修を実施し情報や取組等について共通理解を図る。 がんばり学びタイム指導員による個別支援を行い、学習習慣の定着につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の「聴く」必然性を作るために、数学的な見方・考え方が出てきた時にベアトークを行い、ふり返り活動を入れることで聴く構えができていく児童が少しずつ増えてきた。 指導補助員などによる個別支援によって「聴く」ことを意識したり、学習に対する意欲を維持したりすることができ、望ましい学習習慣につながっている児童がいる。 学校全体で教室の掲示物等も児童が集中できる環境になっており「学びに向かう姿勢」が定着している。 話しやすい雰囲気を作るために聞き手が反応をしながら聴くことを学級文化にしていこう。 特性のある児童の対応については、指導補助員、がんばり学びタイム指導員だけでなく、教職員間での共有をさらに深め、学習や授業のルールの定着を図る。 	A
	○児童の家庭等での学習習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートで「進んで家庭学習をしている」の肯定的な評価を80%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「家庭学習の手引き」をもとに、家庭学習の方法を指導し、高学年においては自主学習を家庭学習に取り入れる。 生活アンケートの結果から、ゲーム等に費やす時間や一日の過ごし方について、家庭でのルールをしっかりと決めることの大切さを知らせる。家庭と連携しながら情報モラル研修やタブレット研修などを行い、よりよい取り扱い方を継続して啓発していく。 保護者の協力を得ながら、読書や家の仕事、運動についても意識して取り組めるように啓発する。 児童が宿題を確実にこなすように、学習カードを活用し、児童・保護者・担任間で日々の学習の振り返りができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度も家庭学習の手引きを配布し、学校と家庭が連携しながら学習を進めていけるようにする。また、手引き配布時に活用の仕方を説明し、自主学習などにも活用するように意識付けを図る。 今年度も情報セキュリティ教室を開きSNSなどの正しい使い方について学ぶ機会をもったことで昨年度よりもさらに児童の情報モラルを高めることができた。 家庭でメディアやネットワークゲームを利用の仕方について考える機会をもつ大切さについて啓発する。 「家庭学習の手引き」については、校区全体の取り組みとして小中一貫を目指し、連携を推進していく。 	B
	○漢字と計算を中心とした基礎・基本のさらなる向上	<ul style="list-style-type: none"> 漢字のまとめのテストを繰り返し行って、正答率85以上を目指す。 基本的な計算の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習における反復練習により、習得内容の定着を図る。 宿題による復習・繰り返し練習によって学力の向上を目指す。 放課後学習の時間を確保することで基礎・基本の層の定着を図る。 担任・教科担任・兵庫型学習システム教員及びがんばり学びタイム指導員との連携を密にし、個に応じた指導の充実を図るようにつなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通した朝学習の継続により、習得内容が少しずつ定着してきている。 朝学習でタブレットを活用することにより、学習に苦手意識をもつ児童が学習しようとする姿が少しずつ見られ、復習や繰り返し練習に取り組むようになってきている。 習った漢字を普段の生活に使う意識が弱く、漢字の定着に課題のある児童がいる。 少人数が機能しておらず、来年度はさらに個に応じた指導の充実を図れるようにつなげていく。 学習内容を関連付けて考える意識が弱い児童がいるため、学習内容と既習事項との関連付けや、児童が関連付けた意見を発表した時に、褒めて価値付けすることで児童の意識を強くしていく。 	A
	○ICT機器等の効果的な活用	<ul style="list-style-type: none"> 学習の中でミライシードのムーブノートやオクリンクを使って意見を交流することができる 	<ul style="list-style-type: none"> タブレットなどのICT機器を用いて、児童一人ひとりの実態に合わせた学習をすすめ、履歴を残すことで、基礎基本の定着を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員が学習中にタブレットを使い、子どもの興味や関心をひきつけるような工夫をするといった意識が強まっている。 どの学年でもタブレットを活用しており、子どものタブレットの習熟が図られている。 より子どもが学力を高めるためにアプリなどの精選と扱う内容を教職員内で検討し、共通理解をする必要がある。 	B